様式7　授業改善プロジェクト

アクション・リサーチのまとめ

英語教員指導力向上研修

受講番号　19075　学校名　香長中学校　氏名　藤川　眞理子

研究の背景

研究対象（学年、クラス等）　1年2組　生徒数　40　名

科目名　1年生　単位数（授業時数）　3　時間　使用教科書名　New Horizon English Course 1（東京書籍）

クラスの様子・特徴

比較的男女の仲が良く、明るく素直な子どもたちが多いクラスである。意欲的に発表できる生徒もいるが、学習内容の難度があがるにつれ、発表する生徒が固定化されてきている。また、学習面で個別指導を特に必要とする生徒もいる。

問題の確定

英語が読めないことが、学習意欲を更に低下させており、日本語の意味を理解したうえで読める力を身につけさせる必要がある。

予備調査

A 授業の観察	B 生徒による授業評価	C 学力データ
授業始めの英語の歌は、かなり歌えるようになった。1年生の初期ということもあり、音読やその他の言語活動ではある程度の声が出ている。しかし、文字と音との結びつきをを意識できずに、フォニックスの定着が不十分な生徒も多い。	生徒の9割が、単語の意味を覚えるなど自分は英語の力をつけていっていると感じている。生徒の7割が「読むこと」「書くこと」にはさほど抵抗を感じていないが、発音が分からないという声があり、もっと読んだり話したりする力を身につけたいと考えている。	理解の能力では概ね満足できる。表現の能力ではC判定の生徒も多く、早くも学力の二極化の傾向が現れてきつつある。導入期のアルファベットテストでは、再テストを繰り返さなければならなかった生徒もおり、フォニックスの基礎が身についていない生徒がいる。

リサーチ・クエスチョン

英語に苦手意識を持っている子どもたちがいるクラスで、どうすれば自信を持って音読ができるようになるか？

仮説・実践・検証

仮説1 ⇒	実践1 ⇒	検証1
毎時間、英語の歌を歌うことと、フォニックス指導で、英語の読み方を理解し、英語らしい発音に慣れていくであろう。	"Sing","Ebony And Ivory", "Rudolph, the Red Nose Reindeer", "We Wish You a Merry Christmas",など、行事や季節にあわせて授業始めに歌を歌い、文字と音声とを結びつけさせるようにした。フォニックス指導としては、アルファベット・カードとワークシートを用いて、一斉指導のなか、短時間で基本のルールを復習していった。	授業評価のコメントを見ても、歌は大好きで、正確でなくとも歌詞カードを見ながら口ずさむ生徒や、未習語があっても、さびの部分は歌えるという生徒もいた。しかし、英語ファイルを忘れてくるなど、定着させたい生徒になかなか定着させきれない面もあった。フォニックスの復習は、全員が発音の仕方がわかるようになってきたと答え、確認テストもほぼ全員が合格したが、徹底した指導が必要な数名に対してはまだ途上にある。
仮説2 ⇒	**実践2 ⇒**	**検証2**
グループ（班）で、教科書本文の和訳確認と音読に取り組み、発表することで、苦手な生徒もそれほど抵抗なく、全体の場で音読に取り組めるであろう。	一斉音読にまず時間をかけた。DVD視聴しながらナチュラル・スピードに慣れさせるようにした。また、授業の最後に10分～15分程度、班内で教科書本文の読みあわせを行わせた。各班で教えあいをさせながら、教師は机間指導をし、正しい発音などのアドバイス等を行った。一定範囲の中から、自分たちが音読したいユニットを班で選ばせ、10月下旬に、各班単位での一斉音読を順番にさせた。	DVD視聴しながらの練習は、ナチュラル・スピードで音読しようとすることができた。シャドーイングは練習しづらかったようだが、Read & Look Up は子どもたちの真剣さが表情に表れていた。班単位での練習は効果が分かれた。班練習が役にたったと答えたのは約半数で、学力が両極にある生徒たちにとっては、負担であったり練習しづらかった。教師が班に入り込んだうえでのマンツーマン指導がもっと必要だった。
仮説3 ⇒	**実践3 ⇒**	**検証3**
ペアまたはグループ（3人）で音読に取り組み、相互評価を行ったり、活動方法を工夫することで、意欲的な音読につながり、最終的には一人でも自信をもって音読テストに臨めるであろう。	生徒たちにペアづくりをさせ、固定ペアで音読練習をさせた。授業最後の10分～15分程度を練習にあてた。声の大きさや英語らしい発音、気持ちの込め方のほかに、教師が設定したタイムに近づけることも目標のひとつとしながら練習し、互いに評価表を持たせ、コメントを書かせた。最後に、個人での音読テストを行った。	8割近くの生徒が、ペア活動では自分なりの成果を感じることができた。目標タイムで音読できるように、ペアで楽しみながら練習できていた。しかし、タイムに固執しすぎて、気持ちを込めることや、英語らしい発音に気を配ることが不十分になってしまった。音読テストでは、なかなか読めなかった生徒もいたが、練習段階ではまずまずのタイムで読めていた。指導方法を再検討する必要がある。

研究の成果

フォニックス指導を継続的に行うことによって、より定着が図れた。授業始めの歌で、英語モードへの転換を図り、未習語であっても、音声と文字を結びつけることの一助となった。班単位での音読練習は、苦手意識のある生徒は、個人で読むよりも、とりかかりやすく、教えあわなければという意識は育った。ペア練習は、生徒たちの満足度も割合高く、意欲的に互いのタイムを計りながら練習でき、結果的にほとんどの生徒が、目標を達成できた。また、音読テスト後のアンケートで、「もっと気持ちを込めて大きな声で読みたい」など、生徒自身が自分の課題を把握することもできた。

今後の授業改善の課題

4技能が密接に関わりあうような活動の工夫をしていく。今後の音読テストでは、生徒自身が自分の課題を把握し、改善していけるよう、複数回の録音を経験させフィードバックしておく。また、教科書以外の興味深い読みものにも触れさせていき、ストーリーとともに音読を楽しめるようにしていきたい。また、ペア活動と同じように生徒が楽しんで参加できる班活動の可能性を模索していく。

リサーチについての問合せ先：　職場電話　088-863-2460